

おしのやかた ② 押野館跡

押野三丁目

押野館は室町時代（14～15世紀）に、現在の押野にあったと考えられる、富樫氏の一族の館です。館主は建武二年（1335）に加賀守護となった富樫高家の弟家善で、「押野殿」と呼ばれていました。

発掘調査では、館の周りを囲む大きな堀や掘立柱建物、井戸跡などが発見されています。また、当時の生活の道具であった土師器皿や瀬戸焼壺、鉄製の鋤先などが出土しました。



押野館跡位置図

加賀藩士湯浅玄斎は文化八年（1811）頃に、当時の館の状況を示した「押野館跡図」を描いています。図によると館の大きさは南北87間（約158m）、東西56間（約102m）です。



押野館跡 館の中の様子